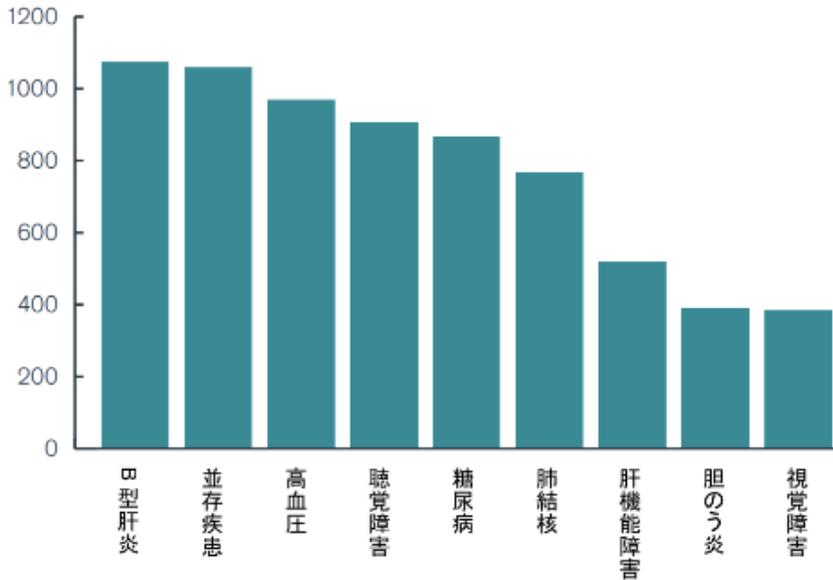


船員の騒音性難聴(聴覚障害)の抑制について

UK クラブ PEME 検査 海上勤務不適合統計



UK P&I クラブの船員雇用前健診 (Pre-Employment Medical Examination、以下 PEME) プログラムでは、すべての船員に対して、充実した臨床検査サービスを提供しています。船員は PEME 検査ですべての主要な臓器器官や機能を検査されます。その診断結果から収集されたデータは定期的に分析され、船員の健康状態の傾向を把握するために利用されています。

難聴(または聴覚障害)により不適合となる例は、全体の 11%を占めています。当クラブでは、聴力検査で異常と診断された最大のグループが機関室で作業に従事している船員であることに注目しています。

一般的に、聴覚検査の結果が悪い船員は、軽度から中度の高周波難聴の兆候も示しています。機関室内で働いている船員は聴覚障害を引き起こす傾向があり、予防策を講じていない船員には、この傾向が特に強いようです。

通常 85dBA を超える高いレベルの騒音環境は、騒音性難聴 (以下 NIHL) を引き起こします。このレベル以上の騒音による悪影響は、個人差や騒音環境の曝露時間によって異なります。

聴覚障害の特定と抑制

聴力検査は当クラブ PEME 検査に含まれています。この検査は、騒音性難聴 (NIHL) を判断する唯一の診断評価です。この検査は、防音ブース内の聴力検査装置で損傷を正確に測定します。聴力保護プログラムには以下の項目が不可欠です。

1. 全ての船員を対象に、騒音環境の曝露後 6 か月以内にベースライン聴力測定を実施します。この検査は、対象となる船員が少なくとも 14 時間、危険な騒音にさらされていない時に実施するのが理想的です。

2. 高い騒音レベルに曝されている船員には、騒音が聴力に及ぼす影響、聴力検査の目的、騒音による聴力損傷を軽減する保護具の効用についての研修受講を求めることもできます。
3. 船上では、機関室のような騒音に曝される環境は避けることができないため、そのような区画内では聴力保護具は義務付けられています。耳栓やイヤーマフなどの聴力保護具は簡単に入手して、使用することができます。最も効果的に聴覚を保護できるのはイヤープロテクターです。
4. 85 デシベル以上の騒音に曝されている環境、特に騒音レベルが高く、長時間に及ぶ場合は、船員に対して適宜休息を与えてください。

医師の見解

インド・ムンバイにある当クラブ承認の PEME クリニック、Kaifak Medicare の M.K.E. Memon 医師は次のようにコメントしています。

「海事関係者の健康に携わる医療専門家として、船員の間で騒音性難聴が蔓延していることを、非常に懸念している。話し言葉を理解する能力は、『信号対雑音』の比率に依存しており、大きな騒音によってしばしばその比率が損なわれるとされている。一番良い環境 (騒音がない状態) でさえ、スピーチを読唇できるのは音声の 30% から 40% 程度であると推定される。よって、騒音被害を抑制し、聴力反応を改善させるためには予防策を講じることが極めて重要である。

イヤーマフや耳栓を使用することは騒音性難聴を抑制するための効果的な方法の一つである。臨床研究では、イヤーマフは、騒音被害を減らすことができ、聴覚障害のリスクをある程度まで最小化できることが明らかになっている。船員は騒音環境下では常に適合したイヤーマフや耳栓を適切に使用すべきである。ただし極端に高温多湿な環境では、外耳周辺の皮膚炎や皮膚感染症を引き起こす可能性がある。

イヤーマフを使用すると、騒音レベルと通信レベルの両方が同じ量だけ低減されるということに注意することが重要である。そのため、イヤーマフの有無にかかわらず、会話や警報、異常音が聞こえにくくなる場合がある。このような問題点に対応するために、緊急時の音の聞き取りができる<通信用受信機>をイヤーマフに内蔵することで、この保護具の利用の促進を促している。

標準純音聴力検査は、両耳それぞれに対して、低音から中、高音までの周波数帯における難聴を測定する有効で確かな方法である。騒音性難聴はこの標準純音聴力検査により、かなり正確に測定することができる。難聴を早期に発見して対策を講じるためには聴力検査を重要視することが必要不可欠である。PEME の中で、ウィスパーテスト(ささやき声検査)は、その特徴として主観的なものといえる。そのため、医師としてはこのテストを推奨すべきではない。

船員間でのコミュニケーション障害も、難聴の重要な証拠として考慮されるべきである。読唇や対面での会話は、内容について聴力以外の手がかりがある



ため、『電気通信』よりも適していることがある。一方で、ノイズキャンセリング機能付き広帯域 / 専用ヘッドセットや耳栓など、技術改良された機器類により聴覚情報の受信を向上することができる。

最後に、レム睡眠時には、人は話を聞いたり、簡単な質問に答えることができる。聴覚を除いて、ほとんどの知覚刺激は、睡眠時には意識的な感覚には至らない。軽度から中度の難聴がある船員に対して乗船中の緊急時、睡眠から覚醒させるために、振動アラームや明るい点滅ライトを可聴警報として利用することができる。

結論として、騒音性難聴の抑制は船員の安全をまもり、健康を維持するために優先されるべきである。我々はイヤーマフまたは耳栓の使用を促進し、『通信用受信機』をイヤーマフに組み込んで緊急音が

受信できるようにし、難聴を早期に発見できるように聴力検査を重視する必要がある。船員の安全と健康維持を確保するために、ともに協力していきましょう。」

まとめ

UK P&I クラブの PEME プログラムは、上記の推奨事項が実行されるならば、難聴から船員を守り、乗船中に発生する聴力障害のクレームに対する、船主/運航者にとっての予防策となると考えています。

詳細につきましては、UK P&I クラブの PEME チームまでお問い合わせください。

Kaifak Medicare Pvt.の M.K.E. Memon 医師のご協力に感謝いたします。
Kaifak Medicare Pvt.のウェブサイトはこちら :
<https://www.kaifakmedicare.com/>

CREW HEALTH ADVICE

UK P&I クラブは、1996 年当時、乗組員の疾病クレームが増加し、クリニックが説明責任を負わなかったことから、1996 年に初めて乗組員の健康プロジェクトを立ち上げました。それ以来、クルーヘルス・プログラムは当クラブの主要なロスプリベンション活動の取組みの 1 つになりました。本プログラムは、既往症や疾患に起因する乗組員の疾病クレームの発生件数および金額を削減させることが目的です。これら基礎疾患は、乗組員の乗船勤務の適性に影響することが多く、船員本人の健康だけでなく、本船に同乗する他の乗組員の安全も危険にさらす可能性があります。

ソフィア・ブラード (Sophia Bullard)
クルーヘルス・プログラム・ダイレクター

Direct: +44 20 7204 2417

Email: sophia.bullard@thomasmiller.com



ソフィアは 1992 年にトーマス ミラーに入社し、1994 年から主にフランスおよびスペイン・メンバーのクレーム担当となりました。2004 年、乗組員健康プログラムのダイレクターに就任し、多数のクリニックの監査を実施、医療検査の標準フォームの作成やクリニックに対するガイドラインを策定しました。

サイドウル・アロム (Saidul Alom)
クルーヘルス・フィー・アドミニストレーター

Direct: +44 20 7204 2968

Email: saidul.alom@thomasmiller.com



サイドウル・アロムは、2004 年に欧州地域サービスチームから クルーヘルス・チームに加わりました。サイドウルは、クルーヘルス・プログラムにおける管理サポートとして、承認クリニックとの経理処理を担当する責任者です。

スチュアート・ラスト (Stuart Last)
クルーヘルス・アドミニストレーター

Direct: +44 20 7204 2413

Email: stuart.last@thomasmiller.com



スチュアートは、1998 年に UK P&I クラブのギリシャ・メンバー担当のクレーム処理研修生としてトーマス・ミラーに入社しました。2005 年 4 月、スチュアートはクルーヘルス・チームに管理者として加わりました。

スチュアートは、メンバーの PEME 参加手続きやクリニックを承認する際のプロセス管理を担当しています。